

crystals granular colorless warts resembling to those of caperatic acid after similar treatment. The dried acetone extract contains beside the same granular warts norstictic acid, which gives rise reddish minute needles by K.

\*       \*       \*       \*       \*

大正 10 年 3 月発行の植物学雑誌で Vainio (当時は Wainio と書いた) は安田篤氏送付の日本産地衣 95 種を鑑定したが、其内に *Usnea* 属の 7 新種が含まれた。此处では其内の着色髓を有する *U. creberrima*, *U. croceorubescens* 及 *U. roseola* の 3 種を問題にするが Motyka は彼の Monograph の中之之等の 3 種を *Euusnea* 亜属 *Elongatae* 節の *Ceratinae* 亜節に收容した。筆者は日本之地衣第 3 冊 Genus *Usnea* を編纂した際既刊の文献と安田氏所蔵の腊葉とを基礎とし一応の見解をまとめた。最近東亜産の *Ceratinae* 亜節再検討に際し上記 3 者のタイプ標本を検査する機会を得た。その結果 *U. croceorubescens* と *U. roseola* の 2 つは筆者の見解に一致して居るが *U. creberrima* は従来筆者の抱いた概念と全く異なった形相を現わして居り、解剖の結果 *Euusnea* 亜属のものではなく *Eumitria* 亜属のものであることが判明した。今迄に筆者が搜索した所では日本及近隣の地域の *Eumitria* 亜属の標本中には同一品を見出し得ない。尚此の結果従来筆者が *U. creberrima* に充てたものが何であるかは後続の雑記で発表するつもりである。

□FAO (ed.): **Standard nomenclature of the exportable timbers of the Asia-Pacific Region** Ab pp. 96 Roma (1960). 少し古いが便利なものだから紹介する。これは FAO 即ち国連の Food & Agriculture Organization. Rome が発行した、西太平洋周辺から印度、印度支那、及び日本(残念ながら中国がない)にわたる地域からでる、主要材木のリストであって、第一表で学名から商品名や材の重さなどを第二表で商品名からの逆 Index をつけてある。マレーシアあたりのラワン材など引くと、*Shorea* sp. としかないのは種類が多いしまた乱れているためかも知れないが、逆にその *Shorea* をみると、いろいろの種類のタイや北ボルネオでの商品名がでてくる。東南アジアの植物資源にはもっと関心は持ってよいと考える場合に、一つの参考になるだろう。Roma の FAO の本部で \$1.00 でわけると書いてある。(前川文夫)

□The christchurch Botanic Gardens, a garden century 1863-1963. pp. 182 ニュージーランドのクライストチャーチは美しい町を自負しているが、こゝに感じのよい植物園がある。そこが 1963 に創立 100 周年を祝ったのを機に、沿革史と現在の状況とを多数の写真と地図一葉を使って小冊子に紹介したのが本書である。写真を見ると全く欧州の、ことに英国式の景観になっているのは、植民地として本国への郷愁の歴史のなすところであろう。池のほとりに *Gunnera manicata* の大きな茂みなど、いかにものびのびと少しもいたずらされていないのはうらやましい。市民ととけ合い、愛されている植物園のサンプルを知るのにつごうのよい冊子である。(前川文夫)